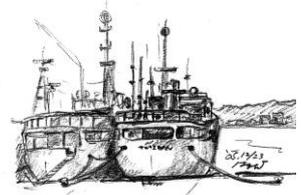


ビキニ被災支援 室戸の会

ニュース 2024年6月01日 No.58

発行 ビキニ被災を支援する室戸の会 太平洋核被災支援センター
連絡先 事務局 宿毛市 088-066-1763(山下) 室戸の会 0887-35-8725(濱田)



「ビキニデーin 高知2024ー核被災フォーラムー」 に県内外から 198 人が参加

〈5/11の全体会〉

今年で4回目を数える「ビキニデーin 高知 2024ー核被災フォーラム」は、5月11日・12日の二日間の日程で、「ソーレ」を会場におこなわれました。

1日目の全体会の主な内容は次のようなものでした。①映画「荒海に生きる」視聴 と元船員の語り ②マーシャル訪問の報告 ③シンポジウム

(1)映画「荒海に生きる」と元船員さんの語り

この映画は、1957年のクリスマス島水爆実験の抗議と当時のマグロ漁船の様子を紹介したドキュメンタリーです。第7幸鵬丸の操業航海を通じて、当時のマグロ漁業の厳しさが伝わってきます。また、何気なく「ここはロンゲラップ島で、放射能をたっぷり浴びた島・・・」などとナレーションが入りますが、そういう危険なところを通じて操業しているということです。スコールを浴びているシーン、デッキで食事をしているシーンはいずれも放射線を浴びていることの証明だと思えます。

映画のあと、桑名さんと久保さんが登壇し、当時の話をしてくれました。「あの映画の通りだった。睡眠時間がなかった。ギリギリの仕事だった。その時はもちろん水爆実験のことなど教えてもらえず、あとからあとからいろいろなことを知らされた。今思うとゾッとする。被爆したことが知れると、仕事をさせてもらえないので、いっさい隠しながら働いた。」「国も、もう少し力を入れて対策をしてほしかった」。

(2)マーシャル訪問の報告

高知からは3人が参加しましたが、代表して下本さんが報告しました。ロンゲラップ島のキャシーさんミナさんはじめ現地の方と交流し、当時は出産以上もたくさんあった話などは衝撃的でした。また、グアムに在住のロバート(元米軍兵士)さんが、マーシャルで核廃棄物処理をして被ばくしたこと、その補償を求めて取り組み、行政機関も巻き込んだ取り組みになり補償も得ていることなども紹介されました。



(3)シンポジウム

シンポジウムには三人の方からの問題提起がありました。奈良大学の高橋さんからは、アメリカの核開発の歴史、人体に大きな影響があることがわかっていながら、そのことを隠して核開発をしていたこと、福島の齋藤医師からは第13 光栄丸、神通川丸の船員の検査資料の分析から、長崎の西山地区の症例に似ている、低線量被ばくということの証明となること、弁護士の内藤さんからは、ビキニ被災船員訴訟は、内部被ばく、低線量長期被ばくの証明が中心課題となることなどが報告されました。



◆一日目の感想をいくつか紹介します

- 映画で、学校を卒業して船員になった方々の生活が、本当に大変だったことがわかりました。当事者は上の人が言った通りやった、との発言は時代を感じます。命がけで獲ったマグロを大量廃棄されて40代で同僚が亡くなったといった事実をしっかりと伝えていく必要を感じました。
- マーシャルに行かれた下本さんが同年代や若い世代の方と交流し、核兵器の恐ろしさを伝える姿は素晴らしいと思います。日本でも、もっと理解を深めていきたいです。
- 非常に興味深い内容だった。ビキニ被ばくの問題を追及する裁判は、一つに内部被ばくの影響を明らかにする意義があるということを知ることができた。このことは過去の問題ではなく、福島原発の内部被ばくの影響を明らかにするとともに、その被爆者の救済にもつながることだと改めて認識した。これはさらに未来にもつながると思われる。こんご、裁判に注目していきたい。(60代)

〈5/12 分科会の報告〉

◆第1分科会「核被災と救済を求めるとたかい」

第1分科会には、二人の元船員と遺族の方も参加し、当時のマグロ船の様子や裁判に対する思いなども語られました。裁判の経過については、支援する会の橋元さんから、高知と東京に分かれて取り組まれている裁判については、それぞれ南弁護士、内藤弁護士から現状と争点などが報告されました。繰り返し強調されたのは、ビキニ事件での被ばくは、初期放射線ではなくフォールアウトによる低線量長時間被ばくであるということです。このことは、これまで十分議論されてきていないものであり新たな論点の提起です。低線量長時間被ばくは見えにくいものですが、だからこそ苦しんでいる元船員や家族の思いからはじまる裁判にしなければならぬと訴えられました。さらにグアムの退役米軍兵士であるロバートさんから、グアムでの取り組みが報告され



ました。ここではRECA(米国放射線被曝補償法)の意義について意見交換されました。RECAは米国が実施した大気圏内核実験に直接被ばくした結果、癌などの特定の病気に罹患した軍人や住民に対する金銭的補償を規定したものです。コメントした竹峰さんによると「訴える人が、因果関係を説明する必要がないこと」が大きな特徴だということでした。また、黒い雨訴訟で勝利して新たに84名が認定されたことなどが報告されました。

◆第2分科会「核被災と平和運動」

第2分科会では、直接ビキニ事件の取り組みの報告は太平洋核被災支援センター、とビキニ被災支援室戸の会の報告でした。支援センターは裁判の支援や元船員さんへの支援活動、調査活動の取り組み、室戸の会は元船員さんや遺族の方と交流し、支援の輪を広げる取り組みが報告されました。また、ビキニ事件の継承を反核平和の取り組みとして行政とともに取り組んでいる三浦市の取り組み、核兵器禁止条約の批准に向けての住民運動、戦争遺産展の取り組み、また広島民医連の学習活動などが報告されました。福島からのレポートは、帰還困難地域で多くの町民は町を離れている状況での語り部ガイドの取り組みや「慰霊と伝承の場」をつくりの取り組みでした。まさに低線量長時間被ばくの現在進行形だろうと思われま。経済復興だけでなく「同じ犠牲や悲しみを繰り返さない」「あの複合災害からどう生きていくのか」と問題提起されました。福島の現状が伝えられにくくなっている中、貴重な報告でした。私たちから情報をとりに行くこと、そして、国や東電に徹底した除染による復興を求める必要があるでしょう。



◆第3分科会「核被災と平和学習・教育」

第3分科会は、幡多ゼミや静岡の高校生(エバーグリーン)の取り組みは、高校生の自主的な活動の保障が何より大事にされなければならないことが強調されていました。そして、地域に目を向けた学習の取り組み、学んだことを表現する取り組みが報告されました。幡多ゼミが、「既成事実」にとらわれない自主的で自由な学習・研究活動であったことが、隠されていた史実の発見につながっていたことは大事な教訓でしょう。また、紙芝居「ビキニの海の願い」を本にする会の取り組みは、実際の本づくりですが、子どもたちにもわかりやすく、大人にも読みごたえがあるものにしようとするので、太平洋核被災を教材化する取り組みでもあるでしょう。太平洋核被災の問題を小学校で学んだ実践の報告もありました。平和学習における新たな教材と教育実践の始まりだと思います。福島の高校の取り組みの報告は、福島原発の事故の復興さなかの教育現場は何を学びあうのか、これからの大きな研究課題だと思います。報告を聞きながら考えさせられたのは、平和学習ということにおいて、子どもや青年、大人と一緒に学ぶことが大事なことはないかということです。幡多ゼミやエバーグリーンは地域の高校生と大人の学びの場であり、小学校の平和学習の報告でも子どもと教員が学びあいながら進められている様子が見えます。「ビキニの海のねがい」という本も子どもと大人と一緒に読んで平和について考えあうという実験の本のようにも思えます。



2024ビキニデー in 高知に参加して 小山求

5月12日に開かれた分科会(第2 平和運動)に参加しました。私のレポートは「ビキニ被災支援室戸の会の活動」で、展示会やお茶会の活動を報告しました。他に、山下正寿さんの太平洋核支援センターの活動-調査・研究・被災者支援-や土佐市の「日本政府に核兵器禁止条約への参加・署名・批准を求める意見書」採択、福島県大熊未来塾 福島の取り組み等が提出され活発な論議がなされました。特に、質問や意見が交わされたのが、土佐市の報告。核兵器禁止条約の批准を求める意見書は、1年前に議会では否決されましたが、再度住民が世論を高める活動や署名運動、議員回りを進めた結果、反対意見はなく圧倒的多数で意見書は採択されたそうです。ヒロシマ・ナガサキ・ビキニで被災した唯一の被爆国である日本の政府が核兵器禁止条約に背を向けている現状はいかがなものでしょうか。全国でこのような運動を展開し、一刻も早く条約を受け入れることが必要だと声が挙がりました。ちなみに、全国では676、高知県は高知市、安芸市、南国市、香南市、香美市など21自治体。高知県で、全国でこのような運動が野火のように広がれば、日本政府の姿勢は変えられる、核兵器はなくせる、ひいてはビキニ裁判も勝利できると思いました。

◆「ビキニの海のねがい」原画・写真展(5/3~5/11 自由民権記念館)

「ビキニデー in 高知 2024-核被災フォーラム-」と共催で「ビキニの海のねがい」原画展が行われました。本の中の絵を担当してくださった森本忠彦さんの原画と岡村啓佐さんの写真、第五福竜丸展示館から借りたいくつかの資料、山田勝利さんにお借りした資料などを展示しました。新聞やテレビのニュースで報道されたこともあり、来場者は約200人になりました。来場者は、「こんなことがあったなんて全く知らなかった」と語りながら、じっくり原画や資料に見入っていました。

〈感想を紹介します〉

○小生は室戸のマグロ漁船に通信士として乗った。第三久保丸69t、新船の増丸39t、60数年前だったと思う。増丸では39tなのにハワイの南方、クリスマス島の北方まで行った。燃料不足で詫間電波学校で同窓の山岡さん(通信士)の船からドラム缶に入った燃料を洋上にて受け取った。クリスマス島はアメリカ・イギリスによる23回くらいの原爆実験を行っている。広島・ナガサキ・チェルノブイリ・福島・第五福竜丸の件、核廃絶に消極的な日本政府。人間は何と愚かなことか。(89歳)

○4月に高知に転勤して初めて高知に被災した船があることを知りました。歴史を勉強してきたはずなのに、この事実を知らなかったことは悔しくもありました。展示会で被災した方々の言葉を見て、被害の大きさを改めて思い知らされました。引き続き勉強させていただきました。(20代)

◆『ビキニの海の願い』(紙芝居を本にする会編 南の風社 2500円) 好評発売中

<問い合わせ> 南の風社 電話 088-834-1488 Eメール edit@minaminokaze.co.jp

◆室戸の会 6月「お茶会」6月23日(日)10時半から13時 場所 室戸市菜生市民館